

《今日の話》

- ① 経験者採用の魅力とは
- ② 受験を勧める理由、私が一番伝えたいこと
- ③ 採用試験のあらまし、社会人から公務員への道
- ④ 試験対策と講座内容

I 経験者採用の魅力

(1) 仕事の魅力

やりがいと誇りある仕事を通じて人々と社会に貢献できる。

個人では解決できない生活課題や民間だけでは対応できない社会課題の解決に貢献できる。

(2) 給与などだけでなく、昇任などの処遇にも中途採用のハンディがない。

(3) 働きやすい職場環境

(4) 公正公平な試験で採用され、公平公正な人事制度で働ける。

- ・だからモチベーション高く挑戦できる。
- ・新しい行政課題の解決には、多様な経験を積んだ多様な人材が必要
- ・だから現在活躍している先輩達が高く評価されている。
- ・経験者採用は今後も増々大きく門戸が開かれていく。

II 受験を勧める理由 私が一番伝えたいこと

(1) 中途採用のハンディがないとは？

○給与など

- ・それまでの勤続年数や職務経験が給与などの処遇に十分に反映される。
- ・社会人として働いていた期間にさかのぼって、その時からその役所の職員だったものと見做してくれる。
- ・65歳までの定年延長

○昇任などにあたっての条件

- ・給与などと同じく、それまでの勤務年数や職務経験が反映され、さかのぼって職員だったものと見做してくれる。

- ・一般枠に入った同期生よりも早く昇任試験を受けられるので、モチベーションが高く仕事ができる。
- ・すでに多くの先輩合格者が管理職として活躍中。実は、管理職試験の合格率は経験者採用の入庁者の方が一般枠採用の入庁者より高い。

(2)受験しやすい試験制度

- ・一般枠に比べて筆記試験の負担が少ない。
- ・試験内容は、次第に試験勉強の負担がかかり過ぎない方向に向かっている。
- ・ただし、油断は禁物。受けやすいことと、受かりやすいこととは別のこと
- ・しっかり準備して、しっかり合格を目指すことが大切

Ⅲ 試験のあらまし 社会人から公務員への道【資料で説明】

(1)社会人から公務員になる道はふたつある。【資料2・4ページ】

- ① 新卒学生を中心の一般枠 受験要件は年齢だけ。
 - ② 社会人・経験者枠 年齢要件＋一定の職務経験が必要
- 社会人でも受験資格を満たしていれば、基本的にはどちらも受けられる。
○ただし、同じ受験先(例:特別区)では、一般枠と経験者採用の両方は申込みない。
※受験案内など(これまでのものもHPに載っている。)で確かめること

(2)受験資格【資料6・7・8ページ】

○年齢や必要な業務従事歴として必要な期間など

例:

- ・東京都キャリア活用 学歴区分ごとに5年～7年.
- ・特別区 係員級4年、主任級8年、係長級12年の採用区分ごと

○注意するポイント

- ・あまり短いものはダメ。少なくとも6か月とか一年以上継続したものが対象
- ・特別区は、これまで1か所4年以上。R6からは1か所1年以上継続を通算できる。
- ・横浜市【資料7ページ】直近7年で5年以上。2年以上継続を通算できる。

○期間の数え方

- ・出願や受験時点で何年必要というものと、入庁する時点までに何年必要とがある。

○職務経験の内容

- ・多くのところが、民間企業のほか公務員、各種法人、NPO、自営などもOK。海外青年協力隊などがOKもあり。

○派遣、非常勤、アルバイトなどでも、勤務時間などの条件をクリアしていればOK

※個別の受験資格については、それぞれしっかり確認のこと

(3)出題科目、出題例、試験内容【資料9から15ページ】

- ・東京都、特別区、各県、主な政令市、国家系のほか出身地などの道府県、政令市、一般市など
- ・SPIなどの適性検査方式に変更して筆記の負担を軽くする傾向
- ・横浜市 R6から論文なしプレゼンテーションと個別面接へと大胆に変更

○注意するポイント

- ・教養択一の出題科目【資料9ページ】知能分野の数的処理の出題割合が高い。
- ・論文試験の出題例【資料10ページ】
- ・職務経験論文 これまで培ったものを公務にどう活かせるかを論ずる。
- ・課題式論文 社会人として課題の基本的理解、解決の方向を自分なりに論述する。
- ・東京都キャリアは専門試験あり。ただし一定の資格があれば専門試験免除。事務区分の中に、さらに資金運用、財務、不動産などの採用区分
- ・特別区は、係員級1級職、主任級2級職、ICT係長級3級職の採用区分。論文などの問題には採用区分に応じたバリエーションがある。
- ・最近、適性検査やプレゼンテーションの導入が増える傾向
- ・講座では、新しい傾向にも十分な対策を行っているので安心して準備を。

(4)日程など試験内容【資料12から15ページ】

- ・東京都や特別区が比較的早い。福岡市などはさらに早く6月に一次
- ・京都市など11月下旬に一次
- ・横浜市はR6から春・秋の2回方式

IV 試験対策と講座内容

◇試験対策

(1)教養択一、適性検査

- 着実に準備。知能分野から始めるとタイムパフォーマンスがよく効率的
- 適性検査に不安がある方は、TACの対策講義活用で不安解消を。

(2)論文試験対策

- 職務経験論文 職務経験を活かし公務にどう貢献できるかプレゼンするつもりで。
- 職務経験の三本柱
 - ・職務経験の内容
 - ・培ったもの
 - ・それを公務にどう活かす。
- 課題式論文 社会人らしい問題意識や使命感をアピールできれば十分
 - ・行政をめぐる基本理念や基本原理を押さえる。
 - ・自治体運営の目的は住民福祉の増進であること。仕事は最少の経費で最大の効果を上げるように(地方自治法)など。全体の奉仕者の理念(憲法)など

- ・自治体 HP で長期計画の概要版や首長の施政方針などを読む。
- ・論文試験と面接試験とは、書く話すが違って共通の対策ができる。

(3)面接試験対策

- 安定・堅実というイメージから、公務員の仕事は改革・変化の時代へと変わっている。これに正面から向き合う姿勢が大切
- 本試験の面接官もやってきた講師により、面接カードから模擬面接まで指導

(4)受けやすくなったことと、受かりやすいとは別の話

- 油断禁物。しっかり準備。この講座では、プレゼン面接など新しい傾向もフォロー
- 受けやすいところを受けるのではなく、本当に入りたいところを受ける。そのためのしっかりした準備をすれば大丈夫

◇講座内容

- ここまで説明してきた試験内容に特化し、照準を当てた対策を行っている。
教養択一、適性検査対策。論文対策は職務経験論文、課題式論文の講義と添削
- 論文添削は何回でもOK。添削を受けたら指摘事項を参考にして再提出が効果的
- 実戦的な面接対策講義と模擬面接。本面接の面接官経験がある講師による本番さながらの模擬面接が何回でも受けられる。プレゼンテーション型面接(東京都や横浜市)や政策課題(国家公務員係長級)対策も実施
- ◎最も大きな特徴 個別相談・カウンセリング。平日夜や土日祝日に受講生一人ひとりと講師が1対1で。Web面接中心なので遠方の方も受けられる。
- 社会人は勉強の条件が一人ひとり違うので、それぞれに合った合格戦略を練り上げる必要がある。毎年これを活用して多くの方が合格を勝ち取っている。何度も利用したことで合格できたという声を毎年多く頂いている。
- 本講座がカバーしている試験 東京都、特別区、各県庁、横浜市ほか政令市、市役所。Uターン、Iターン型の道府県、政令市、市役所など。
- 公務員から公務員への転職 現役時代は幹部職員だった講師がサポート
- 国税調査官級、国家係長級や外務省書記官級などに合格実績
- 技術職・専門職 建築、土木、機械、化学、保健師、児童福祉などの福祉職や心理職にも合格実績

◇まとめ

このような魅力とメリットがある経験者採用の公務員試験に、ぜひチャレンジしてください。一緒に頑張りましょう。